

建設環境委員会資料

1 令和5年度国の施設及び予算編成等に係る重点要望について

(1)提案・要望項目、内容

……………別途

(2)説明資料

……………P1

令和4年10月28日

土 木 部

1. 地方が実施する事業の推進

- ◆ 地域の生活に欠かせない道路や下水道等の整備、住民の安全・安心を確保するための土砂災害対策や河川改修、道路斜面の落石対策、子どもの交通安全確保対策、地籍調査等が着実に進むよう、防災・減災、国土強靱化のための措置を含む予算を十分確保し、必要な事業が多く残された地方に重点配分すること
- ◆ 施設の長寿命化対策について、国庫補助の適用範囲の拡大と十分な予算の確保を図ること

中山間地域における災害リスクを軽減

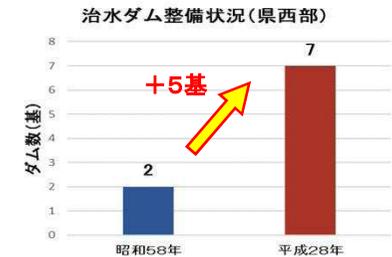
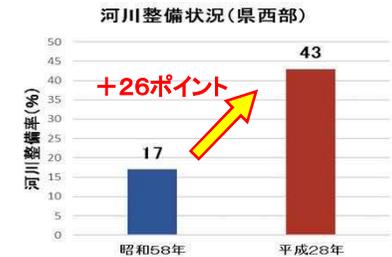


河川整備やダム建設により、豪雨被害が減少

昭和58年豪雨との比較

昭和58年7月豪雨		平成29年7月豪雨	
332mm(浜田)	24時間雨量	370mm(波佐)	
91mm(浜田)	時間雨量	82mm(波佐)	
107名	死者行方不明	なし	
約3,600億円	被害総額	約64億円	
3,041戸	被害家屋(全半壊)	1戸	
6,917戸	床上浸水	13戸	

(被害内容は県西部)



河川整備の一層の推進が必要

令和2年7月豪雨及び令和3年7月豪雨による洪水の状況



令和3年度開通 多田トンネル

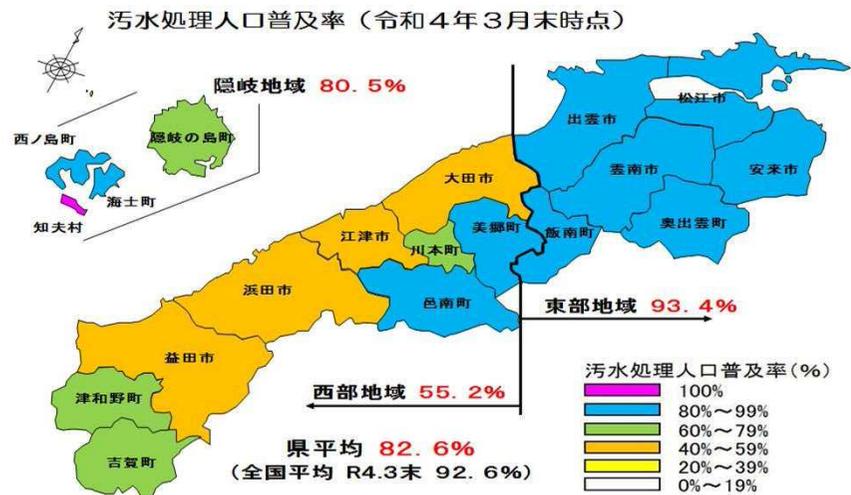
←令和3年8月の大雨での旧道の冠水状況

平常時

川本町へ通勤していますが、旧道は道幅が狭く、毎日恐い思いをしていました。今では夜間であっても、快適に通行できるようになり、残りの区間についても早く完成することを期待しています。

今まで何度も江の川が溢れ、その度に隣町との往来すら、ままならない状況でした。トンネルが開通し、大雨の際にも安心して移動できるようになりました。

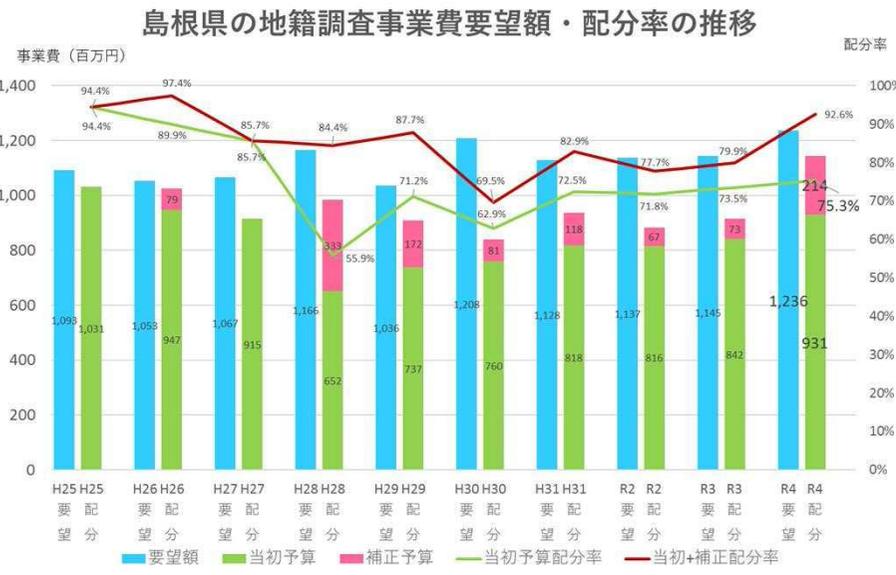
汚水処理人口普及率の低い県西部地域の未普及対策が必要



➤ 都市部からのUターンを決断されるときに、下水道や浄化槽の完備は重要な条件のひとつ

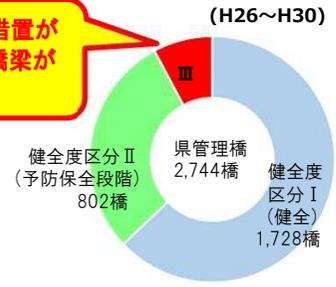
インフラ整備の円滑化のためには地籍調査の促進が必要

- 令和3年度末の島根県の調査の進捗率は53%
- 令和4年度当初予算配分額は市町要望額の75%



早期の予防保全への転換で修繕費用の削減が実現

道路橋の1巡目点検結果 (H26~H30)

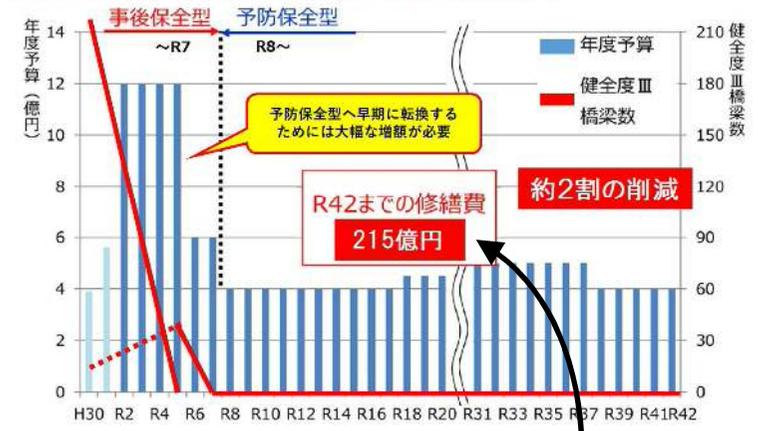


道路橋の損傷事例

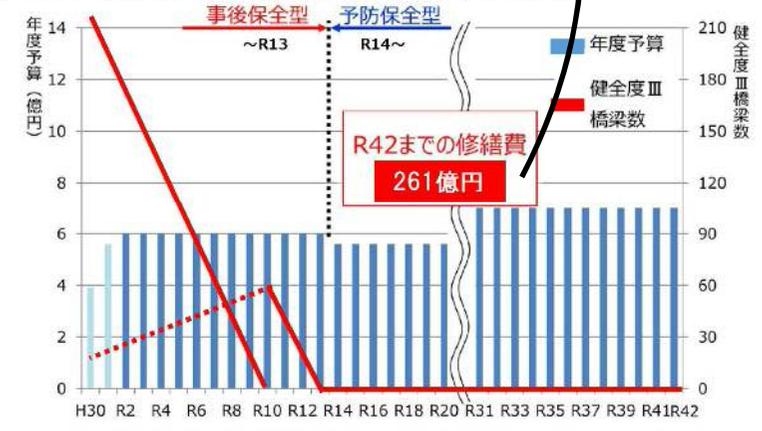


早期修繕の維持修繕費削減効果

【令和5年度までに、1巡目の点検で健全度Ⅲの施設を修繕した場合】



【令和10年度までに、1巡目の点検で健全度Ⅲの施設を修繕した場合】



防災・減災、国土強靱化のための加速化対策の推進

◆県内では、近年、大雨災害が頻発しており、防災・減災、国土強靱化対策の取組を推進していくことが重要であるため、地方負担を軽減する措置を講じ、必要な予算を当初予算において安定的に確保するとともに、5か年加速化対策後も、予算・財源を通常予算とは別枠で確保して、継続的に取り組むこと。

【防災・減災、国土強靱化の取組みに必要となる予算】

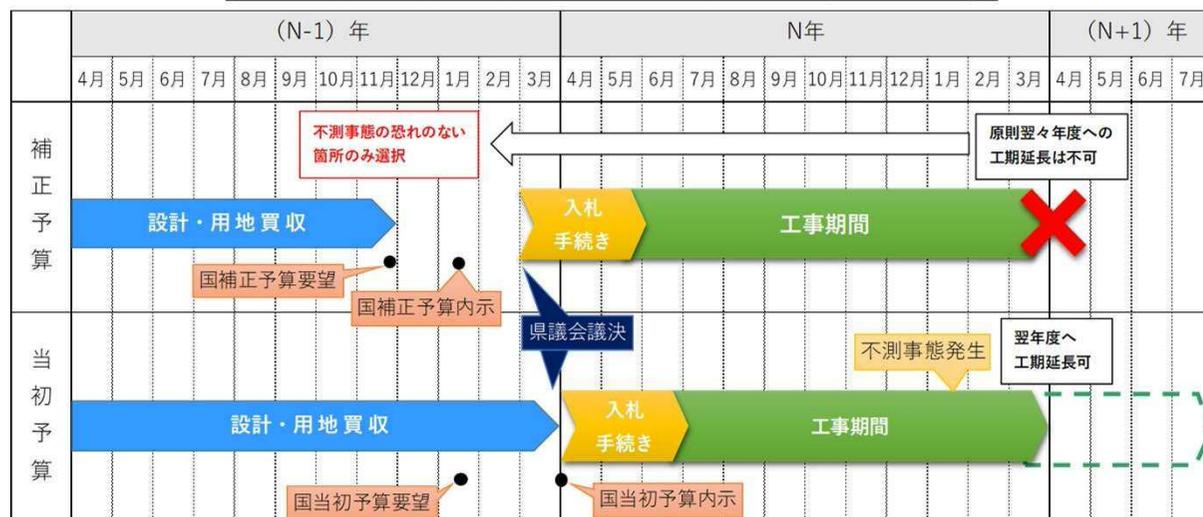
取組みの達成には1兆円を超える予算が必要 (令和元年10月時点)

事項	概算費用 (億円)
①防災・減災、国土強靱化を図る主な取組	
・緊急輸送道路の未整備区間の整備	1,500
・道路斜面の落石対策、橋梁等の耐震化	1,000
・整備が遅れている市街地部の河川整備、洪水予報河川及び水位周知河川の改修	3,000
・土砂災害から避難所や避難路等を保全するための砂防施設整備	3,000
・下水道管路の耐震化、処理場・ポンプ場の改築	500
・防波堤等の整備	500
計①	9,500
②既存施設の機能を強化する主な取組	
・道路施設の長寿命化対策	1,000 ※
・河川内の土砂撤去、樹木伐採	50 ※
・下水処理場・ポンプ場の更新	500
計②	1,550
合計(①+②)	11,050

※は10年間で必要な金額

【当初予算による実施の必要性】

補正予算と当初予算における工事期間 (イメージ)



※ 不測の事態：工事に伴い発生する状況変化（土質、湧水等）、地元との調整（騒音、振動等）、補償処理の困難（家屋移転等）等

➤ 補正予算では、執行期間が限定され、計画的な事業執行に支障

- ・県予算の議決
- ・入札手続き
- ・翌々年度への繰越が原則不可

実質工期が限定(上記イメージの場合は10ヶ月)



不測事態の恐れがなく、**翌年度内に必ず完了可能な箇所を選択せざるを得ない**

➤ 当初予算では、翌年度に繰越することが可能

- ・年度を跨いだ工期延期が可能のため、**計画的に優先度の高い箇所から実施可能**

➤ 今後、防災・減災、国土強靱化の取組みの達成に必要な予算は、1兆円を超えると試算しており、**中長期に渡り、予算を安定的に確保することが必要**

⇒ **中長期的な見通しのもと、必要な予算を、当初予算により安定的に確保することが不可欠**

2.高規格道路をはじめとする地方の道路整備の推進①

◆ 高速道路沿線に企業が進出

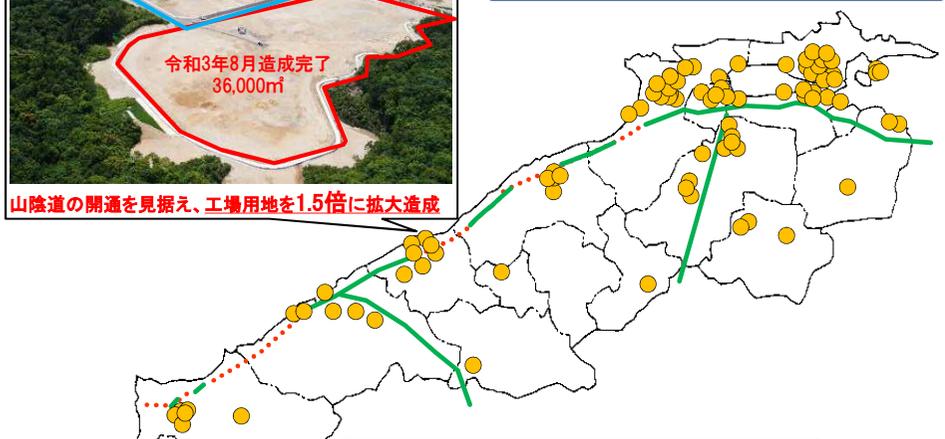
平成20年度以降、進出または増設した県外企業143社のうち約9割の企業が高速道路沿線に立地



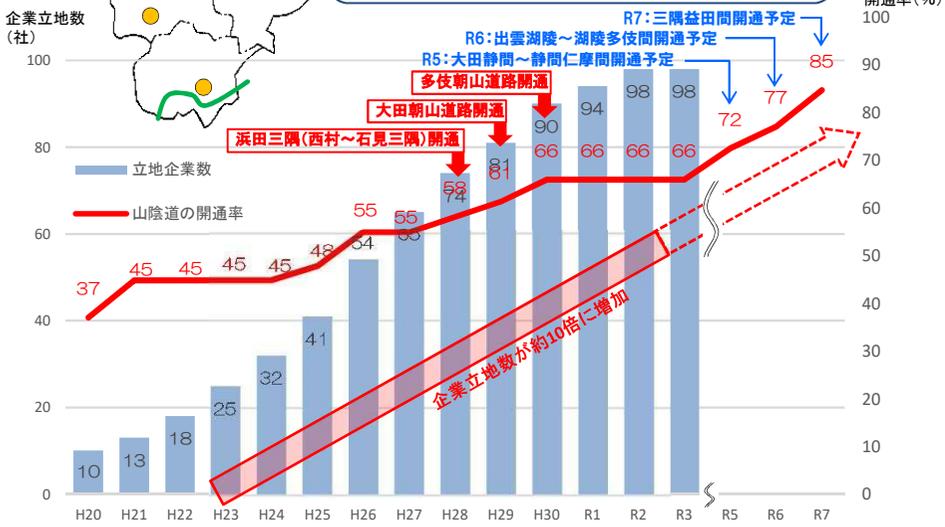
山陰道の開通を見据え、工場用地を1.5倍に拡大造成

【山陰道開通による効果】

- 工場増設による新規雇用の創出
- 地元産業の雇用創出にも貢献
- 通勤圏の拡大（人材獲得の一助に）



山陰道沿線における累計立地企業数の推移



◆ 大規模災害時の代替路としての山陰道 ~東西を結ぶ道路ネットワーク途絶の回避に貢献!!~

令和3年8月の大雨により国道9号出雲市多伎町小田地内で大規模な地すべりが発生し、国道9号が全面通行止となった



山陰道がダブルネットワーク効果を発揮!!



代替路としての機能を発揮!! (通行止め後山陰道の交通量が約4割増加)



2.高規格道路をはじめとする地方の道路整備の推進②

◆ 「益田道路(久城～高津間)」の課題

「久城～高津間」については、浸水による道路ネットワーク途絶の懸念があり、また、一般道と自動車専用道路との混在による交通事故・渋滞などの課題が多く、早期事業着手が必要



◆ 山陰道の整備状況

「益田～萩間」について、多くの未着手区間が残ることから、早期に計画段階評価の手続きが必要



益田～小月間の状況

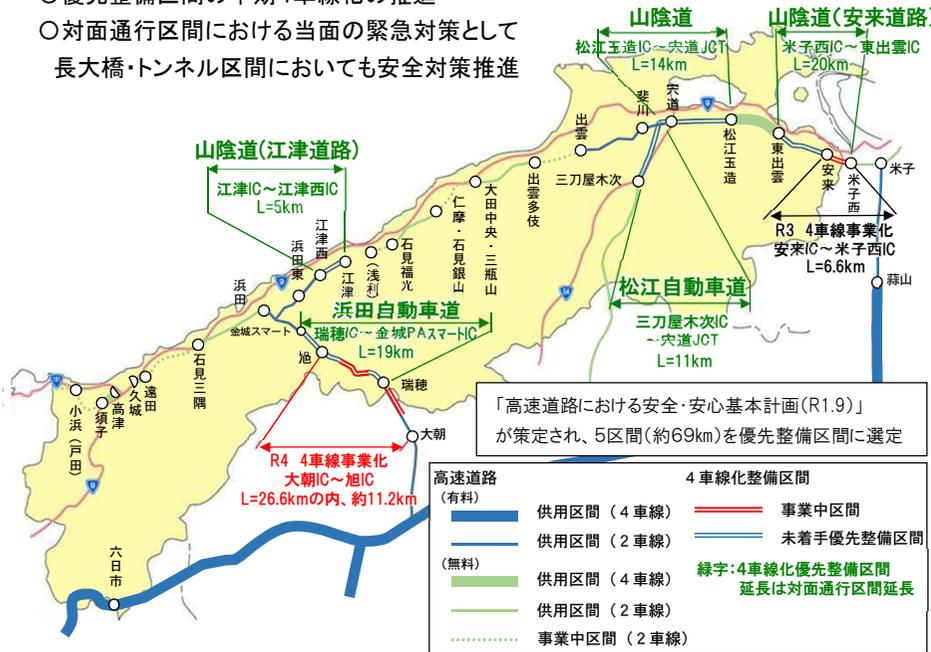
※()は総延長に対する進捗率

	総延長	供用済	事業中	未着手区間
益田～萩	70 km	—	32 km (46%)	38 km (54%)
萩～小月	60 km	21 km (35%)	14 km (23%)	25 km (42%)
計	130 km	21 km (16%)	46 km (35%)	63 km (49%)

2.高規格道路をはじめとする地方の道路整備の推進③

◆ 高速道路(有料区間)の4車線化等の推進

- 優先整備区間の早期4車線化の推進
- 対面通行区間における当面の緊急対策として
長大橋・トンネル区間においても安全対策推進



課題を解消し、安全・安心な高速道路に！

県内の供用済みの高速道路は8割以上が暫定2車線

ネットワークの代替性の確保



4車線化や付加車線整備が必要

事故防止



4車線化やワイヤロープ整備が必要

◆ 渋滞が著しい国道9号出雲バイパスの全線4車線化

一般国道9号出雲バイパスは、4車線で都市計画決定され、平成19年12月に暫定2車線で開通した。しかし、地域の発展に伴い交通が集中し、朝夕を中心に慢性的な渋滞が発生しており、早期の全線4車線化が必要。



出雲バイパスの渋滞状況

2.高規格道路をはじめとする地方の道路整備の推進④

◆ 中海・宍道湖圏域を結ぶ“8の字ネットワーク”の一部を形成し、高規格道路のミッシングリンク※である「境港出雲道路」の直轄事業としての施行

※防災・減災、国土強靱化に向けた道路の5か年対策プログラム(中国ブロック版)【令和3年4月】



地図出典：国土地理院ウェブサイト（アナグリフを加工して作成）
(https://maps.gsi.go.jp/#10/35.434939/133.034821/&ls=anagl_yphmap_gray%2C0.58&disp=1&vs=c1g1j0h0k0i0u0t0z0r0s0m0f0)

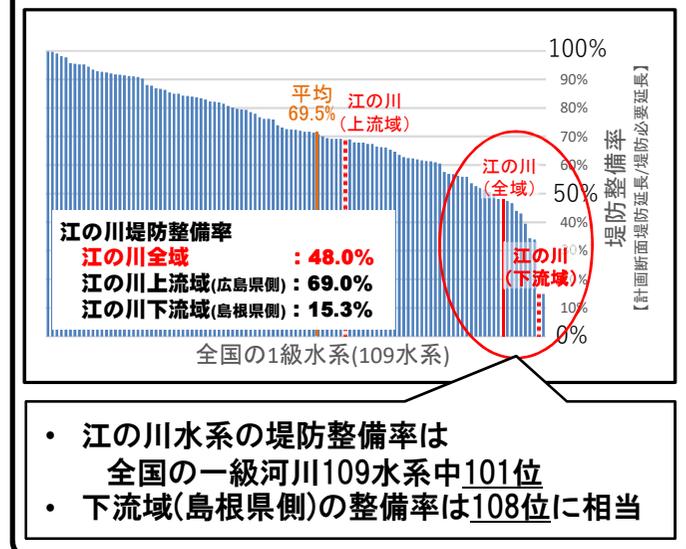
3. 江の川下流治水事業の推進

- ◆ 江の川下流域では、平成30年7月・令和2年7月豪雨に続き令和3年8月大雨により**3年余りの間で3度の家屋浸水被害**が発生
- ◆ 沿川の住民が**安心して住める地域**となるよう、「治水とまちづくり連携計画(江の川中下流域マスタープラン)」に基づき事業を推進し、流域治水による**対策を加速化**させること
- ◆ 江の川支川の矢谷川など、直轄事業と連携し一体的かつ早急に整備を進めるため、**必要な予算を配分**すること
- ◆ 防災集団移転促進事業については、地域の合意形成を経て策定された事業が進むよう、**十分な予算を確保し、必要な予算を配分**すること
- ◆ 排水ポンプ車の配備計画の見直しや排水機場の整備など、**内水対策のための支援の取組を強化**すること

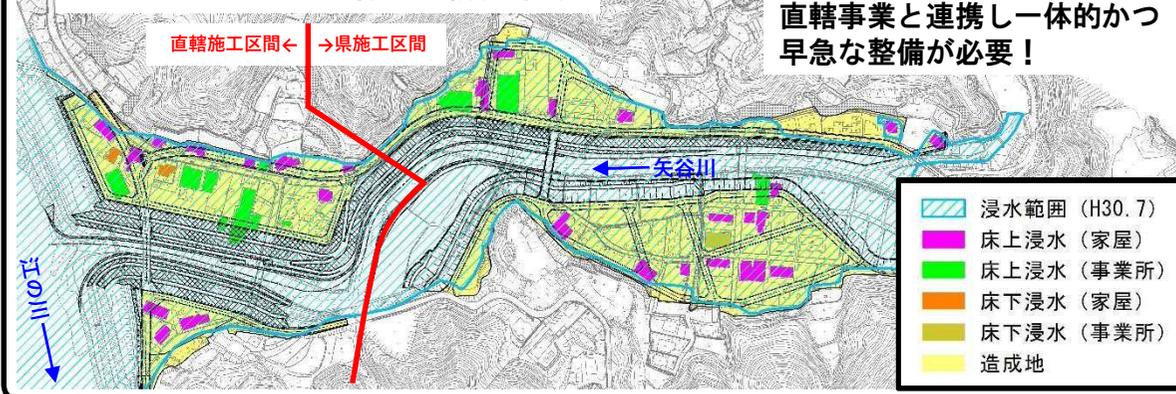
江の川下流域 被害状況(平成30年7月～令和3年8月)



堤防整備率(R3.3末時点)



矢谷川 土地利用一体型水防災事業



港地区 防災集団移転促進事業



4. 斐伊川・神戸川治水事業の推進

- ◆ 流域全体の治水安全度確保に向け上流部のダム、中流部の放水路は完成
- ◆ 下流域の安全度確保のためには大橋川改修と中海湖岸堤整備の加速化が必要

治水計画の考え方

上流・中流・下流でそれぞれ機能を分担し、流域全体の治水安全度を高めます

2 斐伊川放水路の建設と斐伊川本川の改修



中海・宍道湖への洪水の流入量を減らすため、放水路を建設し斐伊川から神戸川へ洪水の一部を分流します。

洪水を安全に流すため、神戸川の川幅を拡げ、斐伊川本川の改修も行います。

斐伊川放水路(H25完成)



3 志津見ダム(H23完成)



下流へ流れる洪水を調整するため、洪水を一時的にダムに貯留します。

尾原ダム(H24完成)



1 大橋川改修と中海・宍道湖の湖岸堤の整備



洪水を安全に流すため、中海・宍道湖の湖岸や大橋川に堤防を築きます。

大橋川の断面が不足する箇所では、掘削や拡幅を行います。

上追子排水機場(R3.9完成)



東本町地区護岸整備の状況

(R4.1撮影)



5. (1) 大規模特定河川事業の推進

◆ 大規模特定河川事業について、計画的・集中的に事業を推進するため、必要な予算を配分すること

玉川大規模特定河川事業

玉川は、江津市桜江町内を流下する八戸川の支川であり、平成25年豪雨による洪水で浸水被害が発生した。このため補助事業により、玉川橋の架替などを集中的に実施し、治水安全度を早期に向上をさせる。



施工予定箇所の状況



湯谷川大規模特定河川事業

湯谷川は、出雲市内の住宅密集地を流下しており、湯谷橋などが支障となって平成9年豪雨による洪水等で広域にわたり甚大な被害が発生した。このため補助事業により、湯谷橋の架替などを集中的に実施し、治水安全度の向上を図る。



施工予定箇所の状況



中川大規模特定河川事業

中川は、松江市街地の中心部を流下しており、河道が狭小なため毎年のように浸水被害が頻発し、昭和47年豪雨のほか近年では平成18年にも甚大な被害を被っている。このため補助事業により、本区間の放水路を改修することにより流域全体の治水安全度を早期に向上させる。



施工予定箇所の状況



大規模特定河川事業位置図



5. (2) 矢原川ダム事業

◆ 流域住民の安全・安心を早期に確保するため、ダム事業の推進が必要

矢原川ダム【生活再建対策推進】



◇引き続き、用地取得、付替道路工事などを推進する



洪水発生年月	原因	主な被害
昭和58年7月 (365.6mm/day)	梅雨前線 豪雨	床上浸水895戸、床下浸水131戸、 全壊749戸、半壊305戸、農地浸 水646ha

【参考】 県内初の「大雨特別警報」が発表された平成29年7月豪雨において御部ダムが洪水調節効果を発揮

※ダム上流域で流域平均総雨量370mm(時間最大41mm)を記録

御部ダムでは最大約967m³/sの流入に対して、
下流河川への流量を最大で約651m³/sカット



御部ダムで上流からの流木を捕捉し、
下流への流出を防止



三隅川の三隅大橋水位観測点
付近で約1.2mの水位低下



5. (3) 土砂災害から人命を守る総合的な対策の推進

- ◆ 激甚化・頻発化する土砂災害から人命を守り、安全で安心して生活できる地域づくりを実現するため、個別補助事業(大規模特定砂防等事業及び事業間連携砂防等事業)等の土砂災害対策予算を十分に確保すること
- ◆ 保全人家戸数やがけの高さ等の防災・安全交付金の採択基準を緩和すること

H30年7月豪雨で被災した広島県と同じ真砂土地帯が広く分布。危険箇所は全国で2番目

補助・交付金の採択にならない箇所の整備は遅れている

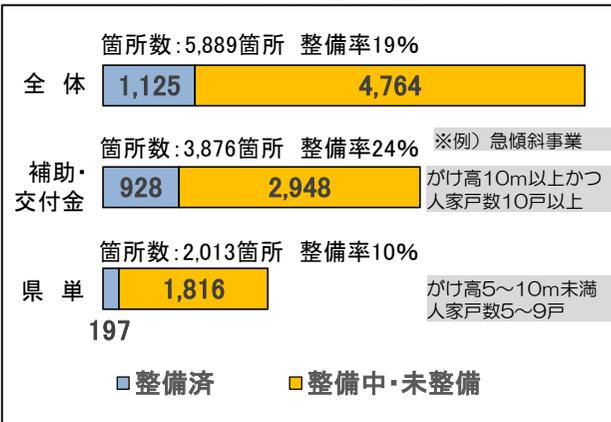
まだ、未整備箇所が多く存在。対策予算の確保が必要！

土砂災害危険箇所数・整備率

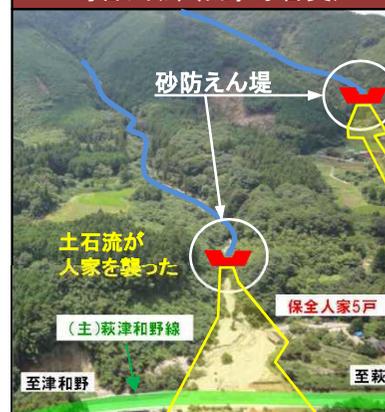
順位	県名	土砂災害危険箇所	左記のうち要対策箇所	要対策箇所整備率(%)
1	広島	31,987	10,550	32
2	島根	22,296	5,889	19
3	山口	22,248	6,221	23
4	兵庫	20,748	9,280	19
5	大分	19,640	6,719	27
	全国	525,307	193,877	23

※土砂災害危険箇所：H14公表値、要対策箇所：H22年度末
※整備率：島根県はR3年度末、他県はH22年度末

土砂災害要対策箇所 整備状況



個別補助(大規模特定砂防等事業)
鳴谷川(津和野町名賀)



個別補助(事業間連携砂防等事業)
浄光寺谷川(大田市川合町)



令和3年7月豪雨時の被害状況！

【被害状況】

7月12日豪雨(145mm/24h、60mm/h；上山雨量観測所)が発生
◆土石流により家屋が被災！ ◆家屋の1階部分が埋塞！

令和3年7月豪雨 土石流により被災(雲南市吉田町；三谷川支川)



令和3年7月12日の雨雲レーダー

家屋1階部分が埋塞

令和3年7月豪雨時の施設効果！

【対策施設の効果】

7月7日豪雨(206mm/24h、79mm/h；万田雨量観測所)が発生
砂防堰堤 が、上流から流出した土砂を捕捉し、下流の人家35戸を救う！

令和3年7月豪雨(出雲市国富町；丹堀川)

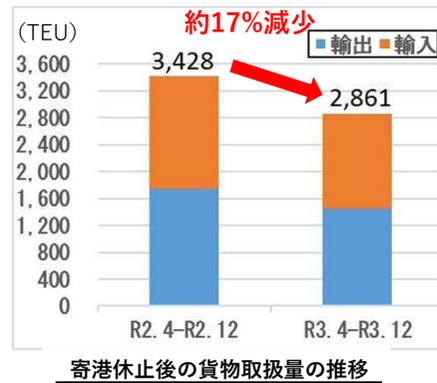


砂防堰堤による土砂捕捉

人家35戸を保全

6. 浜田港の機能強化

- ◆ 荒天時における港湾稼働率の向上を図るため、「新北防波堤」の整備を推進すること
- ◆ 福井地区において、見込まれる船舶の大型化に向けた港湾機能の強化を推進すること
- ◆ 臨港道路「福井・長浜線」の整備が着実に進められるよう、必要な予算を配分すること



浜田港を取り巻く状況

- 国際定期コンテナ航路(2便/週: 南星海運、長錦商船)
 南星海運が寄港を休止 (令和3年3月~)
 - ・ 使用船舶の大型化により、寄港が休止となった。
- 航路減便による影響
 - ・ 寄港休止後の令和3年4月~令和3年12月のコンテナ取扱貨物量は 昨年の同時期と比べて貨物量が約17%減少。
 - ・ 荷主に対して、利用コストの緊急支援を実施。

船舶大型化に向けた港湾機能の強化が急務

暦年での推移 約9%減少
 寄港休止後の推移 約17%減少
 ⇒コロナによる一定の影響もあるが、寄港休止後の影響が大きい。



コンテナターミナルを有する日本海側の港湾

港名	岸壁水深
石狩新港	10.0
小樽港	12.0
秋田港	13.0
酒田港	14.0
新潟港	12.0
直江津港	10.0
伏木富山港	12.0
金沢港	10.0
敦賀港	14.0
舞鶴港	14.0
境港	14.0
下関港	12.0
北九州港	15.0
博多港	15.0
浜田港	8.5

※「日本の港湾2020」より
 コンテナターミナルの最大水深を抜粋

7. 県内3空港の安全で安定的な運航の確保

◆ 県内3空港の老朽化対策および滑走路端安全区域 (RESA) の整備を着実に進められるよう必要な予算を配分すること

- ▶ 老朽化対策
 - ・空港毎に定めた維持管理・更新計画に沿って、滑走路舗装等の計画的な改良
 - ・劣化した航空灯火の更新にあわせ、令和12年度までに灯火のLED化
- ▶ 滑走路端安全区域 (RESA) の整備
 - ・令和8年度までに工事着手を目指し、順次整備

